

課題名	9 水稻病害虫の発生生態と防除	分類	①
	イネばか苗病の種子消毒剤の選定 (トリフミン、ヘルシード)		
試験研究年次	63～1年 (完了)		
<p>I 目的</p> <p>近年、福岡県では育苗期におけるイネばか苗病が多発傾向にあるので、有効な薬剤を選定し、本病の防除法の確立をする。</p>			
<p>II 試験方法</p> <p>1 試験場所 筑紫野市吉木 福岡農総試験場内</p> <p>2 耕種概要</p> <p>(1) 品種: 「日本晴」 (自然感染粉)</p> <p>(2) 播種量: 縦15.5cm×横18.5cm×高さ3.5cmのプラスチック製容器当たり乾燥粉で約24.2g (標準育苗箱当たりの換算値は約150g) 播種。</p> <p>(3) 育苗床土: くみあい黒粒培土</p> <p>(4) 出芽・育苗: 30℃の恒温器内で3日間、出芽後は屋外で慣行育苗。</p> <p>3 供試薬剤 (有効成分: %)</p> <p>トリフミン乳剤 (トリフルミゾール: 15%)</p> <p>ヘルシード水和剤 (ペフラゾエート: 20%)</p> <p>4 処理方法</p> <p>水選後風乾した種子を供試し、室温下 (17～20℃) で以下の処理を行った。</p> <p>(1) 種子粉衣処理: 乾燥種子重の0.5%の薬量で湿粉衣したあと風乾し、24時間浸種。換水は1日1回。</p> <p>(2) 浸漬処理: 所定濃度の薬液中で所定時間浸漬処理。処理後の風乾は8時間、その後の浸漬は2～3日間で、換水は1日1回。</p> <p>5 区制 3区制</p> <p>6 調査方法</p> <p>(1) 発病状況: 播種後17～20日後に各区の全苗について発病の有無を調査。</p> <p>(2) 苗長: 発病苗調査時に、各苗箱の見かけ上健全苗20本について苗長を測定。</p>			
<p>III 主要成果の概要</p> <p>1 トリフミン乳剤の300倍24時間浸漬処理は、処理後の風乾の有無にかかわらず、対照のベンレートT水和剤200倍24時間浸漬処理に比べて優れた防除効果を示した。</p> <p>2 ヘルシード水和剤200倍24時間浸漬処理は、処理後の風乾の有無にかかわらず、対照薬剤に比べて優れた防除効果を示した。また、20倍10分間浸漬処理も対照薬剤と同等の効果を示したが、0.5%湿粉衣処理は浸漬処理に比べて効果が不安定であった。</p> <p>3 両薬剤ともやや生育抑制が認められたが、普通期水稻において実用上は問題ない。</p>			

IV 主要成果の具体的データ

第1表 ばか苗病に対する種子消毒効果 (63年)

供試薬剤	処理濃度 ・量・方法	風乾の 有無	発病苗率 (%)	防除価
トリフミン乳剤	300倍24時間浸漬	○	0	100
ヘルシード水和剤	200倍24時間浸漬	-	0	100
	20倍10分間浸漬	○	0.07	99.8
	0.5%湿粉衣	○	0.14	99.5
ベンレートT水和剤	200倍24時間浸漬	○	0.15	99.5
	20倍10分間浸漬	○	0.07	99.8
	0.5%湿粉衣	○	0	100
無処理	-	-	30.09	-

第2表 ばか苗病に対する種子消毒効果 (1年)

供試薬剤	処理濃度 ・量・方法	風乾の 有無	発病苗率 (%)	防除価	苗長 (cm)
トリフミン乳剤	300倍24時間浸漬	-	0.05	99.8	9.9
ヘルシード水和剤	200倍24時間浸漬	○	0	100	9.9
	//	-	0	100	10.7
	0.5%湿粉衣	○	0	100	10.7
ベンレートT水和剤	200倍24時間浸漬	○	0.89	95.8	11.6
	0.5%湿粉衣	○	0.51	97.6	11.0
無処理	-	-	20.92	-	11.8

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 1990年度主要農作物病害虫防除基準に採用した。
- 2 ベンレートT水和剤では粉衣処理の効果が最も高いが、ヘルシード水和剤では逆に粉衣処理の効果はやや劣る。

VI 今後の研究上の問題点

- 1 トリフミン乳剤、ヘルシード水和剤の効果はいずれも静菌作用によるものであることから、育苗期における効果が本田期を通じて持続するかどうかの確認が必要。

VII 資料名

- 1 昭和63~平成元年度 福岡県農業総合試験場生産環境研究所
普通作物病害虫関係試験成績書